



人と地域を
結ぶ
まちづくり

しあわせの結び目

養 老

Yoro Town

養老町勢要覧



養老町には、絆を大切にしている心が

1300年前から受け継がれています。

その心を体現するため、

今、養老町では

「人と地域を結ぶまちづくり」を進めています。

紡ぎ、繋ぎ、結ぶ。

あなたと養老町を結ぶ、

しあわせの結び目。

人とまち、人と人を

結びつける魅力が、ここ養老にはあります。



人と地域が結びつき、支え合いながらまちをつくり、
楽しく生きがいを持って暮らし続けられる

“養老町”というしあわせの結び目となっています。

CONTENTS

- 3 町長あいさつ
- 4 養老絆の④
- 6 養老の暮らし
- 7 養老改元から1300年を迎え、
次の100年へ
- 8 魅力を紡ぐ
 - 8 歴史
 - 10 自然
 - 12 観光
- 14 未来を繋ぐ
 - 14 子育て
 - 16 教育
- 18 まちづくりを結ぶ
 - 18 健康・福祉
 - 20 産業
- 22 養老町まちづくりビジョン
- 26 70年のあゆみ
- 30 YORO MAP
- 31 YORO INFORMATION



町長あいさつ



養老町長
川地 憲元

養老町は、昭和29年11月3日に当時の1町9村が合併して誕生し、今年で町制施行70周年の節目を迎えました。以来、幾多の困難を乗り越えながら、町民の皆さまと手を取り合って発展し続けてまいりました。

令和2年初めに国内で初めての感染者が確認されて以来、国民の行動を大きく制限し、社会経済に大きな打撃を与えた新型コロナウイルス感染症も、令和5年5月に感染症法上の取り扱いが5類へと移行され、本町においても様々な地域行事やイベントが開催されるようになってきました。今一度、本町の歴史・文化に目を向け、その魅力を最大限引き出し、コロナ禍で薄れてしまった人と人、人と地域との結びつきを強めてまいりたいと考えております。

併せて、養老町まちづくりビジョンに掲げる将来像「人があつまり 楽しく生きがいのあるまち」の達成のため、人があつまり、人と人とがふれあい、地域に活気が満ちる、持続可能なまちづくりの実現を目指して、本町の魅力を町外・県外へと積極的に発信し、交流人口や関係人口の拡大・深化にも努めてまいります。

この要覧は、本町の現状と紡いでいく未来について綴ったものです。養老町について知っていただくための資料として広く活用いただけますと幸いです。

令和6年4月



田中遥琉さん

Q

養老町の魅力は？

A

お肉が美味しいことが自慢です。
養老町のお肉を食べて、
キックボクシングの
世界チャンピオンをめざします！



岩永唯伽さん

A

たくさんの遊具がある養老公園と、
きれいな水が流れる養老の滝が
おすすめです！家族や友達と
よく遊びに行きます。

Q

今イチオシの
スポットは？

絆のわ



山田邦晶さん

Q

まちと結びついている！
と思うことは？

A

町が行っている
子育てサロンなどに
参加することで、
ママ友ができたり情報交換ができて、
子育ての輪が広がります。

A

先人から受け継いできた水田を
次の世代へと繋ぎながら、
無農薬栽培を進めて、
ホタルを復活させたいです。

Q

これからの養老町で
したいことは？



大橋彩さん

Q 昔と比べて、
今の養老町は？

A 養老町と同じ日に
生まれて70年が経ち、
道や建物が増えたりと変化しましたが、
少し角度を変えれば今も昔も変わらない
原風景が残っています。



日比勝さん

Q 養老町での
暮らしは？

A 日常風景の中に
豊かな自然が見られるのが
いいですね。
また、イベントの開催など
活気にあふれています。

佐竹憲子さん



Q 養老町での子育ての
しやすさとは？

A 自然がいっぱいで、
自然と触れ合いながら
育てられることです。
町民もみんな親切で、
子どもたちと遊んでくれます。

川瀬安依さん



町制
70周年
特別企画

養老

町制施行から70年が経ち、
多くの方がこの地で
暮らしを営んできました。
そして今、養老町では、
「人と地域を結ぶまちづくり」
を進めています。
1300年前から受け継いできた
人とまち、人と人との間にある
絆の輪について、
養老町に暮らす様々な世代の人たち
にお話を聞きました。



暮らしの 養老の

四季折々の美しい自然と
懐かしい町並みが残る養老町。
そこには、
未来に残していきたい風景が、
人々の暮らしと共に
存在しています。



6	3
	4
7	5
8	1
	2

1. 養老鉄道
2. 黄昏時の牧田川
3. 養老公園の紅葉
4. ひょうたん
5. 養老公園の雪景色
6. 栗笠の獅子舞
7. 六社神社のムクノキ
8. 養老公園の桜

養老改元から1300年を迎え、次の100年へ



西暦717(霊亀3)年、元正天皇により元号が「養老」へと改元されてから、1300年の時が経った2017年に、養老改元1300年祭が行われました。そこで得られた成果や財産を未来に繋いでいくために、様々な取り組みが引き続き実施されています。次の100年へ向けて地域住民や各種団体、事業者や行政が一体となって取り組んでいます。

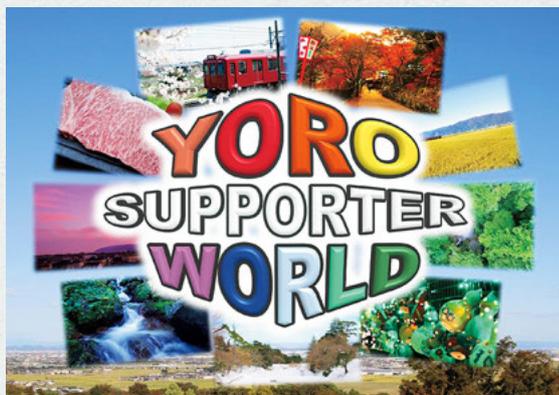
まるごと肉まつり養老

食肉産業が盛んな養老町ではおいしい肉を安く楽しめます。町内の精肉店を中心に「肉」をテーマに個性豊かなメニューを提供する、産業を盛り上げるイベントです。



SDGsマルシェ

ネクスト100実行委員会が主催となり、SDGsに取り組む企業などが出店し、飲食の販売や体験を提供します。地元企業との交流とSDGsについて学ぶことができるイベントです。



新しい仕組みを使った取り組み

イベントだけでなく新しい仕組みを使って次の100年に向けた取り組みを行っています。まちが運営する公式ファンクラブや町内で利用できる独自の決済アプリなど、日常的に利用することや目にするものを活用してまちを盛り上げています。



養老公園でのイベント

県営化してから100周年を迎えた養老公園を、さらに盛り上げていくために100周年記念事業として、植樹や養老薪能が行われました。



歴史

魅力を紡ぐ



孝子物語

養老町には、親と子の絆をつづつた「孝子物語」が伝わり、養老という地名はこの物語が由来になったといわれています。町内には主人公である源丞内の像が建てられています。

歴史のまちである養老町には、数々の史跡や文化財が残されており、これまでに積み重ねられてきた長い歴史を伝えてくれます。



孝子物語 ～親孝行の昔話～

美濃の国に、親を大切にしている樵(きこり)がいました。毎日山で取った薪を売っていましたが、老父の酒は買えませんでした。いつもより山奥に登った時に、岩から滑り落ちてしまい、酒の味がする湧き水を見つけました。「天より授かったこの酒」と腰に下げたひょうたんに汲んで帰り、老父に飲ませると、すっかり若々しくなりました。この話が都へと伝わり、元正天皇が養老の地を訪れ、菊水泉をご覧になったと言われています。

養老町の歴史

養老町のシンボル・養老の滝が舞台である『孝子物語』は、この地が元号の由来となったことに深く関係しており、1300年の歴史はここから始まります。町内には孝子物語にまつわる場所やものが数多く存在し、物語の中で元正天皇が行幸された行幸跡が残っています。

養老町の人々の営みは旧石器時代まで遡ります。象鼻山古墳群などから当時の遺物も発見されて



元正天皇行幸遺跡

717(霊龜3)年、第44代元正天皇は不破郡を経て養老へとおいでになり、美泉をご覧になりました。その時の行幸跡が養老公園の北側に残っています。



ぞうびさん
象鼻山古墳群

象鼻山古墳群は、標高140mの象鼻山山頂から山麓にかけて分布する70基の墳墓の総称です。築造時期は2世紀中頃から7世紀初頭に及ぶと考えられています。



ふなつけみなと
船附湊

養老町船附にある船附湊は、濃洲三湊と呼ばれた川港の一つです。また、この港から琵琶湖のほとりまで続く九里半街道によって京都と北陸が結ばれていました。



出土した
そうほうもんきょう
双鳳紋鏡

双鳳紋鏡は、象鼻山1号墳から発見されました。およそ2～3世紀に製作されたと考えられています。

います。中世になると、河川に恵まれた養老町は交通の要衝として発展しました。また、「多芸七坊」と呼ばれる寺院跡や数多くの文化財が現在も残っています。様々な発展により一時的に東海文化の中心であった養老町には各地から人々が訪れ、その名残を現在でも感じることができます。



柏尾廃寺の千体仏

多芸七坊の一つである柏尾廃寺の付近には、明治時代に発見された千体仏が円錐形の壇上に安置され、当時の隆盛をしのぶことができます。



数多く残る文化財

昔から養老町には文化の高い人々が住み、元正天皇の行幸などの都人の来歴により様々なものがもたらされました。国指定文化財が3点、県指定文化財が17点、町指定文化財が186点あります。



太刀 銘国光



剣 銘不詳



木造十一面
千手観音立像

たぎしちぼう
多芸七坊

養老町は比叡山や白山信仰、伊勢信仰という宗教勢力の中間に位置しており、養老山地の山腹一帯に築かれた7つの寺院は「多芸七坊〈たぎしちぼう〉」と呼ばれるようになりました。北から南宮山麓の別所寺、養老山麓の竜泉寺、光堂寺、柏尾寺、養老寺、光明寺、藤内寺がありました。

魅力を紡ぐ

自然

濃尾平野の最西端に位置する水郷地帯に広がるまち。豊かな緑と清らかな水に恵まれた、自然と共に暮らすこのまちで、心も体も若返る癒しに包まれます。



菊水泉

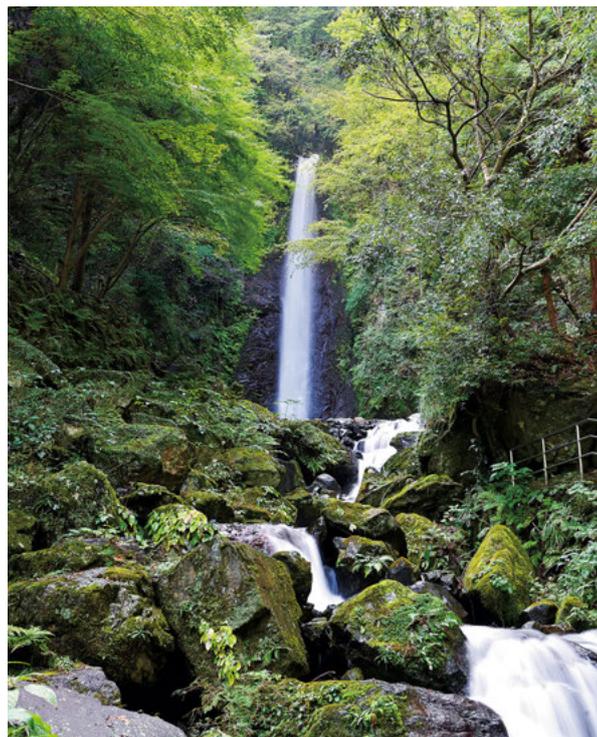
養老神社境内にあり、マグネシウムやカリウムなどミネラル成分が豊富で、環境省選定の名水百選にも選ばれています。

若返りの水

菊水泉は、元正天皇が養老へと行幸された時に浴された美泉とされており、傷や病気が治り、白髪も黒に戻ったといわれている若返りの水です。このことから、元正天皇は「老いを養う」として元号を養老と改められました。

養老の滝

養老公園の奥、高さ約30mから流れ落ちる養老の滝は日本の滝百選に選定されています。毎年7月1日には夏の風物詩である滝開きが行われます。





平野部から山地へと 広がる豊かな自然

養老町は平らな低地から険しい山地まで変化に富んだ景観を持つ自然豊かなまちです。河川にうろおされた平野部はのどかな田園風景が広がり、豊かな水を授ける養老山地は養老の滝や菊水泉の源となっています。緑や水の恵みを授かる本町では、清流にしか生息しない希少な淡水魚ハリヨも見ることが出来ます。

養老町の自然の豊かさは、まちに暮らす人々に癒しを与えています。



養老山

養老山は標高859mで養老の滝の源流をなす山です。三方山、小倉山を通るハイキングコースもあり、濃尾平野や名古屋方面の景色が一望できます。

八王子と箕面を結ぶ 自然歩道

東海自然歩道は、東京都八王子市の「明治の森高尾国定公園」と大阪府箕面市の「明治の森箕面国定公園」を結ぶ、総延長1,667.2kmの長距離自然歩道です。1都2府8県の国定公園をつなぐコースには、緑豊かな自然と歴史を伝える文化財が随所に見られます。



東海自然歩道・養老コース

上石津町境から今熊谷までの全コース15.7kmで、山のふもとを歩くコースになっています。自然の中で歩くことができるのはもちろんのこと、元正天皇行幸遺跡や千体仏が見られる柏尾廃寺などの歴史に触れることもできます。

岐阜県の天然記念物 ハリヨ

トゲウオ科の淡水魚のハリヨは全長4~5cmで、ヒレにトゲを持ち、巣を作る習性で知られています。現在は養老町を含む西濃地方と滋賀県の一部にのみ生息する絶滅危惧種です。





養老天命反転地

国際的アーティストの荒川修作氏とパートナーで詩人のマドリン・ギンズ氏の30数年以上に及ぶ構想を実現した、体で体感するアート空間です。



© 1997 Reversible Destiny Foundation. Reproduced with permission of the Reversible Destiny Foundation

魅力を紡ぐ

老若男女みんなが 楽しめるまち

豊かな自然環境を活用した養老町の観光は、年齢や性別を問わず満喫できます。アートを体感できるテーマパーク「養老天命反転地」や自然豊かなキャンプ場、まちのシンボルであるひょうたんを使った体験や展示、家族みんなで遊べる養老公園など、あらゆる分野の楽しみ方があります。養老町は訪れるすべての人が充実したひとときを過ごせるまちです。

観光



ひょうたんらんぶ館

自家栽培のひょうたんてで製作したランプを展示しています。140を超えるランプが並ぶ姿は幻想的です。



観光インフォメーション

養老鉄道養老駅内の観光インフォメーション。町観光協会職員が常駐しており、町内の観光名所や町特産ブランドなどの情報発信を行っています。



安田 ひょうたん店

栽培したひょうたんや加工品などを販売しているひょうたん専門店です。様々な形のひょうたんに触れることができます。



地元産のお土産

アートや文化、自然やイベントなど様々な表情を見せる。老若男女問わず、おもいおもいの楽しみ方で、養老町ならではの魅力を堪能できます。



親孝行のふるさと会館

養老孝子坂にある、養老町と西美濃地方の情報を発信している観光案内所です。孝子伝説や名産品を紹介しています。



養老ランド

養老公園のすぐ北にある遊園地。昭和48年にオープンしたその時の空気を今でも残しています。



RECAMP 養老

開放感あふれる、夜景や星空が楽しめるキャンプ場で、トイレやシャワーも完備しています。ロッジでの宿泊も可能です。



県営化 100 周年



2023年に100周年を迎えました。展示会などの様々な記念イベントを実施し、100周年を記念したロゴも作成しました。

養老公園

養老山麓の自然の地形を生かした総面積約78万㎡の公園です。園内にはスポーツ施設や子どもの遊び場、お食事やお土産を楽しめる施設があります。



テニスコート



養老バターゴルフ場



楽市楽座・養老



岐阜県子どもの国

ひょうたんランプ づくり体験も

養老町の伝統的な旅館、千歳楼を拠点とした養老ひょうたんプロジェクトでは、オリジナルのひょうたんランプづくりが体験できます。





子育て

未来を繋ぐ

子どもたちの健やかな成長のために町民同士が支え合い、子育てしやすい環境をつくり、守る。その想いが絆のまちを形作っています。

ようろうっこ

ようろうっこは、スマートフォンで利用できる子育て支援アプリです。手軽に子育てに関する情報が受け取れる便利なサービスです。



充実の保育施設

町内に保育園が5園、こども園が6園あり、子どもたちがのびのびと成長できる環境が整っています。



池辺こども園

ぎふっこカード

岐阜県内在住の18歳未満の子どもがいる世帯・妊娠中の人がある世帯に交付されるカードで、買い物や施設利用の際の割引や、授乳室やキッズコーナーの利用ができるなど、地域で子育てを応援する仕組みです。



船附こども園

町民に寄り添う子育て関連施設



児童館



そよかぜ教室

養老町在住の子どもたちを対象に遊びを通して、運動や言葉、コミュニケーション能力などを育てる教室です。また、保護者に対しても相談や支援などを行っています。



虹の架け橋



おひさまっこ



下笠保育園

地域子育て支援センター

子育て家庭に対して、育児不安の解消や子育て支援、親同士の交流をめざすとともに、親子で楽しめる遊び場を提供しています。

養老町の子育ては町全体で支え合いながら行われています。子育て支援アプリの「ようろうっこ」では子育てに関する役立つ情報を発信しており、町内の子育て世帯を支えています。また、子育て関連施設も充実しており、子育て支援センターや児童館などが開放され、気軽に利用ができます。雇用の面から子育てがしやすい環境にする取り組みも国の認定を受けて行われています。

みんな
で
子育てするまち

国の認定を受けた地域再生計画

地方創生を進めるための「養老町次世代育成支援・女性活躍推進拠点創出計画」が、2017年に内閣総理大臣による認定を受けました。子育てと雇用の連携で、女性やその家族が安心して子育てができるようにする計画です。

未来を繋ぐ

教育

充実した学校教育や積極的な町民参画。すべての人にとってより良いまちにするために、まちをあげて、未来を担う人材を育てています。

みんなに行き届く 養老の教育

町内には小学校から高等学校まで合計10校あり、多くの学生たちが学び、日々成長しています。また、学校だけでなく生涯学習施設もあり、すべての町民が気軽に活動に取り組める環境が実現しています。

町民の積極的なまちづくりへの参画も養老町の特徴です。新商品開発のワークショップや子ども議会などを開催することで、大人だけでなく町内の子どもたちも参加し、養老町の将来を考える機会を作ること、未来の養老町を担う人材を育てています。

西濃地区で唯一 総合学科と農業科を設置

大垣養老高等学校は西濃地区で唯一、科目選択ができる総合学科と、農業を学べる農業科の2つを設置している高等学校です。「時代に対応した地域社会に役立つ人づくりを目指す学校」として開校されました。

充実の学校教育

養老町では、地域資源を活用した特色ある「ふるさと教育」やタブレット端末を使用したICT教育などが積極的に行われています。養老町の教育は、様々な活動に地域一体となって取り組んでいることが特徴です。



高田中学校



大垣養老高等学校



養老小学校

町民みんなが学習に取り組みやすい環境

サークル活動や講座などが開催できる生涯学習施設が、各地区公民館も含めると14カ所あり、町民みんなが気軽に学習に取り組める環境です。展示会や文化フェスティバルなどのイベントも開催されるため、町民同士の交流の場にもなっています。



ふれあいセンター養老



山口会館



中央公民館



子どもたちも まちづくりに参画

子ども議会やまちづくりワークショップなど、まちづくりに関する取り組みに町内の子どもたちも参画します。まちの将来を自ら考え行動していく人材の育成に取り組んでいます。



養老町子ども議会

子ども議会は毎年11月下旬頃に開催されます。中学生がまちの将来について考え、願いや想いを伝えることを目的とした発表の場となっています。

まちづくり ワークショップ

町民参画のまちづくりを推進していくため、それぞれの分野においてワークショップを開催しています。様々な世代や立場の町民と活発な意見交換を行っています。



まちづくりを結ぶ



すべての町民がスポーツや生活を安心して楽しみ、生涯にわたって健康でいきいきと暮らしていけるまちづくりを進めています。

すべての町民が
いきいきと暮らす

高齢世帯が増加している養老町では、積極的にスポーツを楽しみながら健康でいきいきと暮らせるまちをめざしています。スポーツに取り組める施設が充実し、健康を育むイベントが日々実施されているほか、健康相談や情報発信を行い、町民の健康を見守っています。福祉の分野では地域での支え合いを深める社会福祉大会などの実施や、障がいのある人に対して、自立訓練や介護のための施設が充実しており、誰も取り残されることなく暮らせる環境づくりを行っています。



養老町スポーツ大会

30種目以上が行われるスポーツ大会で、町民同士の交流と健康増進、町民間でのアマチュアスポーツの普及を目的としています。

清流の国ぎふ健康・スポーツポイント事業

健康診断や各種検診の受診、健康講座やスポーツ教室など、市町村が指定する健康づくりメニューに取り組むことでポイントが付与され、協力店での割引や抽選の応募などの特典が得られる県の制度です。

総合体育館

体育室やトレーニング室などがある町内外の人が利用できる体育館で、イベントなども開催されるスポーツの拠点となっています。





保健センター

予防接種の案内や健康に関する情報発信、育児相談や乳幼児の健診などを実施する、健康づくりの拠点として利用されています。



れんげの家

障がいのある人に対して、家事や食事、入浴などの介護を行う施設です。短期間の入所が必要な人にはショートステイも行っています。



養老福祉作業所

心身に障がいのある人が、自立に必要な生活指導や作業訓練を受け、商品の袋入れなどの仕事を通して社会参加を図る施設です。



老人福祉センター

高齢者の社会活動への意欲を養う拠点として、生活相談室や集会室、機能回復訓練室などが設置されており、憩いの場として利用されています。



福祉ボランティア

各施設でのボランティア活動や、児童・生徒に講義や体験を通して障がいを理解してもらう教室の開催なども行っています。



まちづくりを結ぶ

YOROffice

シェアオフィスや個別ブース、キッズスペースなどがあり、働き方に合わせて利用できるテレワーク施設です。



産業

新しい働き方や利便性の向上、
まちの魅力向上に取り組み、
活力とにぎわいのあふれる、
新しいまちへと進化し続けています。

町公式ファンクラブ YORO SUPPORTER WORLD

養老町が設立・運営する、公式ファンクラブです。養老町に興味関心があれば誰でも“YORO SUPPORTER”になることができ、養老町の魅力を体験・発信してもらうことで、養老町を盛り上げることをめざす取り組みです。



養老町の産業

養老町は岐阜県下2番目の水田面積を誇り、稲作を中心に農業が盛んなまちです。また、食肉関連産業も盛んで、「肉のまち」として知られ、精肉店や食肉加工品製造販売店などが多数あります。



ご当地グルメ 養老飯

ミシュランシェフ監修で開発されたご当地グルメです。お店ごとのアレンジも楽しめます。



瀧最中



醴泉正宗



養老フランク

養老町独自の 地域通貨アプリ 養老 Pay

養老Payは町独自のスマホアプリで、QRコード決済や店舗情報、観光情報などを見ることができます。他にも養老町プレミアム商品券の発行や、1人暮らし高齢者の見守りサービスなどの機能も備えられています。

養老町特産ブランド

歴史や文化、自然に囲まれた養老町の名産品を「養老町特産ブランド」として認証し、全国にPRしています。町民と商品開発ワークショップを開催するなど、町全体で取り組んでいます。



養老サイダー

活力あふれる 養老の産業

社会では働き方改革などの動きがある中で、養老町は新しいことにも取り組みながら伝統的な産業も大切にしています。農業などの一次産業が盛んに行われている一方で、働き方に合わせて利用ができるテレワーク施設がオープン。交通の面では養老ICと養老SAスマートICが開通しています。働き方の多様化や交通の利便性向上などにより産業を盛り上げています。



養老町の交通

岐阜県揖斐川町から三重県桑名市まで養老鉄道が走っており、西美濃、北伊勢地区の人々の交通に役立っています。また、町内でオンデマンドバスを運行しており、地域に欠かせない交通手段となっています。



養老 SA スマート IC

2018年6月に養老SAスマートICが開通しました。利便性の向上だけでなく企業誘致や観光客増加、避難経路の確保などにも役立っています。



まちづくりを結ぶ

養老町まちづくり ビジョン

まちの未来を見据えたビジョンを明確にし、
行政と町民が手を取り合い協働して
まちづくりを進めています。

基本理念

人と地域を結ぶ まちづくり

本町の町民憲章では、愛の輪を
さらにひろげ、力をあわせて未来
につづく明るい町をつくること
がうたわれています。この基本的
な考え方を残しつつ、人と地域、
人と人との接点を大切にすると
まちづくりを進めていくために、ま
ちづくりビジョンでは「人と地域
を結ぶまちづくり」を基本理念と
します。



将来像

人があつまり 楽しく生きがいのあるまち

まちの魅力発信を通じて人があつまり、
活気が満ちるまち。
そして、まちや地域への誇りや愛着を育み、
次世代へと引き継いでいく
持続可能なまちをめざします。





戦略
1

多くの関係人口を有するまち

多様な形で本町と関わる人を増やします。地域と関わりのある人、関心がある人などを増やす取り組みを進めます。

- ①タウンプロモーション
- ②住民参画と地域協働
- ③コミュニティの活性化
- ④多文化共生
- ⑤地域間・国際交流
- ⑥文化活動
- ⑦歴史文化

1 魅力あふれる地域づくり

戦略
2

循環型で持続可能なまち

SDGsの考え方を取り入れるとともに、「地域循環共生圏」の実現をめざします。環境以外でも持続可能なまちづくりを進めます。

- ①地域循環共生圏
- ②ごみと廃棄物



2

未来を担う人づくり

戦略
4

子どもたちが健全に成長できるまち

未来を担う子どもたちが、その成長の過程において様々な問題に直面しても健全に成長できるように支援します。

- ①幼児教育
- ②青少年育成



戦略
3

質の高い教育が実施されるまち

学校教育や生涯学習などの場を通じて、質の高い教育を受けることができるよう、教育内容の質を高めます。

- ①学校教育
- ②生涯学習
- ③生涯スポーツ

戦略
5

すべての人の人権が尊重されるまち

多様な人権問題についての正しい知識を普及・啓発することで、すべての人の人権が尊重されるまちをめざします。

- ①人権・男女共同参画



3

安心・安全な生活基盤づくり

戦略 6

みんなが支え合い、健康で安心して暮らせるまち

健康づくりや地域福祉などの支援について、地域での支え合いを推進し、みんなが安心して生活できるまちをめざします。

- ①健康
- ②地域福祉
- ③子育て支援
- ④高齢者・介護
- ⑤障がい者・児



戦略 7

安全対策が充実し、安心して暮らせるまち

防犯や交通安全、消費生活、防災など、日常生活の不安要因について、関係機関との連携を強化し対策を進めます。

- ①防犯
- ②交通安全
- ③消費生活
- ④防災

4

活力あふれる基盤づくり



戦略 9

多様な産業が活発なまち

各種産業の振興施策を進め、多様な産業が活発なまちをめざします。

- ①農業・林業・水産業
- ②商業・工業
- ③観光
- ④雇用・就労

戦略 8

生活や交流の基盤が整ったまち

道路・交通網や住環境、環境衛生の設備や情報基盤など、暮らしやすい生活基盤を確保し、各種基盤整備を進めます。

- ①公共交通
- ②道路網
- ③情報基盤
- ④市街地、集落環境
- ⑤住環境
- ⑥上下水道



まちづくりビジョンを実行し、 実現できるまち

本ビジョンを確実に実行し、各戦略で成果をあげることができるマネジメント力を向上します。同時に自治体組織としての機能の強化を図ります。

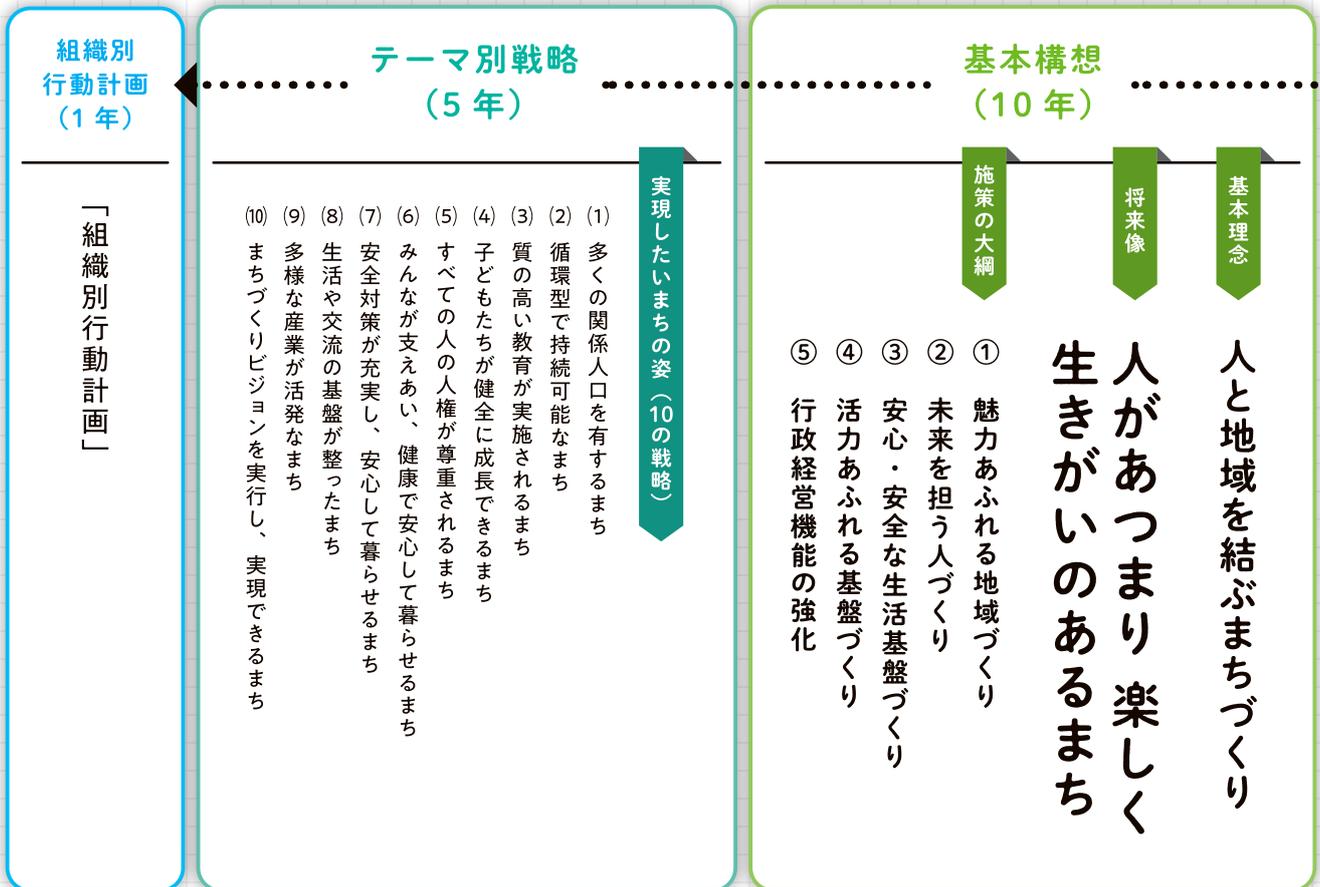
- ①行政サービスの向上
- ②人事機能の強化
- ③自治体経営
- ④まちづくりビジョンを中心とするマネジメント機能の強化



5 行政経営機能の強化



養老町まちづくりビジョンの全体像



周年記念年表

70年のあゆみ

町制施行から70年。

移り変わる時代の中で受け継がれてきたまちの想いと、先人たちが紡ぎ、繋ぎ、結んできた歴史を振り返ります。

1976年	1975年	1974年	1973年	1971年	1969年	1968年	1967年	1966年	1965年	1964年	1963年	1962年	1961年	1960年	1959年	1957年	1956年	1955年	1954年												
3月	6月	2月	10月	4月	3月	4月	11月	7月	3月	10月	9月	10月	9月	1月	12月	9月	7月	12月	8月	3月	3月	4月	11月								
養北保育園完成	町の花を「キク」に決定	養老大橋が完成し国道258号線全線開通	町の木を「ツゲ」に決定	町制施行20周年記念式典挙行政	町社会福祉協議会発足	町民憲章制定	台風23号で養老山系に被害	町役場の新庁舎完成	勤労青少年運動場完成	養老町消防本部・養老消防署発足	町消防団常備部へ救急車配置	養老統合小学校完成	町長選挙・津田梨氏初当選	「明るい青少年の町」を宣言	町営住宅完成	国民体育大会が岐阜県内で開催	中央公民館完成	町制施行10周年記念式典挙行政	東京オリンピックの聖火町内通過	名神高速道路開通	町消防団常備部発足	町長選挙・成瀬信行氏初当選	「交通安全の町」を宣言	町道舗装はじまる	町民センター完成	牧田川右岸堤が根古地内で2度決壊	集中豪雨と伊勢湾台風により	町消防団結団	高田橋完成	町長選挙・山田良造氏初当選	養老町誕生



【1971年】
町役場新庁舎完成



【1969年】
養老町消防本部・
養老消防署発足



【1967年】
養老統合小学校建設の様子



【1995年】
養老公園に養老天命反転地誕生



【1991年】
ドイツのバートゾーデン市と
スポーツ文化友好親善調印



【1985年】
菊水泉、養老の滝が
名水百選に選定

周年記念年表 70年のあゆみ



【2004年】
町制施行 50 周年記念式典挙行



【2004年】
新山口会館完成

2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
8月	3月	3月	11月	3月	3月	10月
住民基本台帳ネットワークシステムが稼働 岐阜県文楽・能大会よろう2002開催 農業集落排水施設・上多度浄化センター 完成	日吉小学校屋内運動場完成 西濃圏域合併協議会が1市9町で設置 養老公園の桜が「飛騨・美濃さくら33選」に 選定	象鼻山古墳群第1次発掘調査 合併の是非に関する住民意向調査を実施 養老公園の紅葉が「飛騨・美濃紅葉33選」 に選定	町制施行50周年記念式典挙行 養老新橋供用開始 養老消防署南部分署を移転新築 孝子の里・養老ハーフマラソン大会を開催 心身障害者福祉センター完成 水害ハザードマップ作成	「男女共同参画のまちづくり条例」の施行 「企業立地促進条例」の施行 「行財政改革大綱」、「都市マスタープラン」 を策定	上水道第4水源地完成、供用開始 町斎場清華苑西館の完成 県営湛水防除事業五三排水機場完成 災害対応特殊化学消防自動車配備 牧田川抜本改修事業完了 地震防災マップ作成	東海環状自動車道西回りルート(町内)工 事着工 レジ袋の有料化(15団体)がスタート

2022年	2023年	2024年
3月	11月	3月
腕組み乾杯ギネス世界記録達成 東海環状自動車道養老JCTから養老 IC間開通 養老改元フェスタ開催 まるごと肉まつり養老初開催 養老改元1300年祭閉幕 ふるさと納税寄付金額1億円突破 名神高速・養老SAスマートIC開通 新型コロナウイルス感染症対策本部設置 養老町まちづくりビジョン策定 小・中学校へのタブレット端末の導入 子どもの医療費の無償化を18歳まで拡充 スマホアプリ「養老Pay」運用開始 ふるさと納税寄付金額10億円突破 大巻地内に防災ステーション完成 養老駅観光インフォメーション開設 テレワーク施設「OROffice」開設 町長選挙・川地憲元氏初当選 町公式ファンクラブ 「YORO SUPPORTER WORLD」設立 南濃衛生施設利用事務組合 新衛生センター完成 新型コロナウイルス感染症 感染症法上の取り扱いが5類へ移行 養老公園県営化100周年記念「養老新 能」開催 養老公園県営化100周年記念「記念植 樹式」開催 SDGsマルシェ初開催 養老町制施行70周年記念ロゴマーク決定	腕組み乾杯ギネス世界記録達成 東海環状自動車道養老JCTから養老 IC間開通 養老改元フェスタ開催 まるごと肉まつり養老初開催 養老改元1300年祭閉幕 ふるさと納税寄付金額1億円突破 名神高速・養老SAスマートIC開通 新型コロナウイルス感染症対策本部設置 養老町まちづくりビジョン策定 小・中学校へのタブレット端末の導入 子どもの医療費の無償化を18歳まで拡充 スマホアプリ「養老Pay」運用開始 ふるさと納税寄付金額10億円突破 大巻地内に防災ステーション完成 養老駅観光インフォメーション開設 テレワーク施設「OROffice」開設 町長選挙・川地憲元氏初当選 町公式ファンクラブ 「YORO SUPPORTER WORLD」設立 南濃衛生施設利用事務組合 新衛生センター完成 新型コロナウイルス感染症 感染症法上の取り扱いが5類へ移行 養老公園県営化100周年記念「養老新 能」開催 養老公園県営化100周年記念「記念植 樹式」開催 SDGsマルシェ初開催 養老町制施行70周年記念ロゴマーク決定	腕組み乾杯ギネス世界記録達成 東海環状自動車道養老JCTから養老 IC間開通 養老改元フェスタ開催 まるごと肉まつり養老初開催 養老改元1300年祭閉幕 ふるさと納税寄付金額1億円突破 名神高速・養老SAスマートIC開通 新型コロナウイルス感染症対策本部設置 養老町まちづくりビジョン策定 小・中学校へのタブレット端末の導入 子どもの医療費の無償化を18歳まで拡充 スマホアプリ「養老Pay」運用開始 ふるさと納税寄付金額10億円突破 大巻地内に防災ステーション完成 養老駅観光インフォメーション開設 テレワーク施設「OROffice」開設 町長選挙・川地憲元氏初当選 町公式ファンクラブ 「YORO SUPPORTER WORLD」設立 南濃衛生施設利用事務組合 新衛生センター完成 新型コロナウイルス感染症 感染症法上の取り扱いが5類へ移行 養老公園県営化100周年記念「養老新 能」開催 養老公園県営化100周年記念「記念植 樹式」開催 SDGsマルシェ初開催 養老町制施行70周年記念ロゴマーク決定



【2022年】
テレワーク施設「YOROoffice」開設



【2018年】
名神高速・養老 SA スマート IC 開通



【2017年】
養老改元 1300 年祭開幕

2009年

1月

養老ドリームパーク(南濃清掃センター)完成

庁舎の耐震改修工事が完成

4月

大場平東コミュニティプラント供用開始
県営農道整備事業養老南部(大場3ツツ屋)完成

9月

伊勢湾台風50年県防災フォーラム開催
公共施設巡回バス「ゲンちゃん号」停留所の増設

2010年

3月

上水道第3水源貯水槽増設完了
国道258号線4車線化工事完成

9月

主要地方道羽島養老線金草大橋開通
上水道上多度南部地区給水開始

2011年

11月

町長選挙・大橋孝氏初当選
第5次総合計画「絆プラン」スタート

10月

11月17日を「養老の日」と制定
ぎふ清流国体軟式野球・サッカー競技大会開催

9月

東海環状自動車道大垣西IC(養老JCT)間開通
養老改元1300年祭プレイイベント開催

11月

オンデマンドバス試運行開始
町制施行60周年記念式典挙行

11月

町消防本部高機能消防司令センター運用開始
養老町初の地域自治町民会議設立

5月

養老改元1300年祭開幕
養老町特産ブランド認証開始
全日本愛瓢会展示会開催
秋篠宮殿下来町

養老町歴代町長



第一代

昭和29～37年

山田 良造



第二代

昭和37～41年

成瀬 信行



第三代

昭和41～57年

津田 梨



第四代

昭和57～平成10年

清水 敏郎



第五代

平成10～22年

稲葉 貞二



第六代

平成22～令和4年

大橋 孝



第七代

令和4年～在任中

川地 憲元

YORO MAP



電車で

東京・名古屋方面から
京都方面から

東京駅 名古屋駅 大垣駅
京都駅 米原駅 大垣駅

養老駅

車で

名古屋方面から
京都方面から

名古屋市内 一宮IC 養老JCT 養老IC
京都東IC 養老JCT 養老IC

養老町

町民憲章

わたしたちの町、養老町は、緑の山、
清らかな水に恵まれた歴史の町です。

わたしたちの、この美しいふるさとを、
先人のたゆまぬ努力によって伸びつづけてきました。

わたしたちは愛の輪をさらにひろげ、
力をあわせて未来につづく明るい町をつくります。

1. おはよう こんにちは と元気な声がわく町にしましょう
1. 美しい自然の中で力いっぱい働ける町にしましょう
1. おとしよりが豊かにくらせる町にしましょう



町章

カタカナで「ヨーロー」を表し、源丞内が酒をくんだといわれるひょうたんの形にしたものです。



町の花「菊」

昭和50年6月、緑と花の町をめざし、町の花を一般公募して選定しました。



スマイル げんちゃん

「孝子物語」の源丞内をモデルにしたマスコットキャラクターで、腰にはひょうたんを下げています。



町の木 「ツゲ」

昭和49年10月、町制20周年を記念し、町にふさわしい木を一般公募して選定しました。



養老町勢要覧

発行年：2024年

発行：養老町役場 総務部企画財政課

〒503-1392 岐阜県養老郡養老町高田798

TEL：0584-32-1100（代） FAX：0584-32-2686

<https://www.town.yoro.gifu.jp>

